

The Wound Meeting 2026 Seoul 参加報告 — 深まる韓国創傷治癒学会との絆

神戸大学大学院医学研究科医療創成工学専攻
和田 則仁

2026年 3月、韓国・ソウルの The Catholic University of Korea (Maria Hall) にて開催された「The Wound Meeting 2026 Seoul」に参加してまいりました。私は今回、2028 年に神戸で開催予定の第 58 回日本創傷治癒学会の会長を務める立場から、韓国創傷治癒学会(KWMS)との交流をさらに深めるため本学術集会へ赴くことにいたしました。

日本創傷治癒学会(JSWH)と KWMS の学術交流の歴史は深く、2008 年の演者相互派遣等に遡ります。2024 年 3 月に MOU(基本合意書)が締結されて以来、両学会の関係は新たなステージに入りました。

本学会でも恒例の MOU セッションが組まれ、JSWH からは上田直弘先生と中島由佳理先生が派遣されました。両先生の発表は非常に立派なものであり、現地の参加者から高い関心が寄せられ、日本の創傷治癒研究のプレゼンスを示す素晴らしい機会となりました。幹事の荒牧典子先生の招待講演でのご発表も有意義なものでした。

学会期間中、KWMS 会長の Young Cheon Na 教授をはじめ韓国の先生方から大変温かい歓迎を受けました。Seorae Bonga Galbi での懇親会ではスピーチの機会をいただき、長年にわたる友情と信頼の歴史に感謝を述べました。また、創傷治癒という分野が多く国や専門領域を繋ぐことに触れ、2028 年の神戸で開催予定の第 58 回学会へ韓国の皆様を多数お迎えしたいと思いを伝えました。結びには、両学会の連携と国境を越えた学び合いが患者様により良い未来をもたらすことを祈念し、韓国語でご挨拶させていただきました。

現地の熱気と親睦を通じ、国際的な学術連携の価値を実感いたしました。今後も JSWH と KWMS の交流がますます発展することを願っております。



懇親会 (Seorae Bonga Galbi) にて
KWMSの先生方との集合写真

2026 WHS Annual Meeting /SAWC Spring Meetingに参加して

慶應義塾大学形成外科
荒牧 典子



日本創傷治癒学会 2026.07 No.154

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail : info@jswh.com

URL : <https://www.jswh.com>

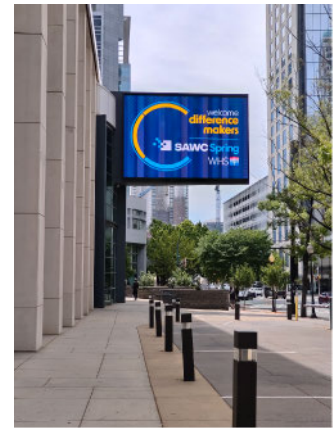
昨年に引き続き、シャーロットで開催されたアメリカ創傷治癒学会(2026年 4月 8日～11日)に参加してまいりました。

元理事長の赤坂先生は、初日早朝より、WHSおよびJSWHの機関誌である『Wound Repair and Regeneration(WRR)』の編集会議に参加されました。冒頭、編集長より遠方から参加した委員への謝意が述べられ、和やかな雰囲気の中で会議が進行したとのことでした。WRRの表紙デザイン、Citation Index、Impact Factorに関する報告に続き、新企画として Special Issueについて検討が行われました。今後、創傷治癒に関する最新トピックを取り上げ、執筆者の選定が進められる予定とのこと、赤坂先生は日本人研究者の執筆にも期待したいとお話しされていました。また、前日に開催された理事会後の懇親会では、多くの海外理事が「日本が好きだ」と口にしていました。さらに、ある理事からは「日本へ移住するにはどのような手続きが必要か」と具体的に尋ねられ、大変驚かれたとのことでした。世界各地で紛争が相次ぎ、先行きが不透明な情勢が続く中、治安の良さ、食文化の豊かさ、そして細やかな気配りを大切にする日本社会に対し、憧れにも近い好印象を抱いている方が少なくないことを実感したとお話しされていました。

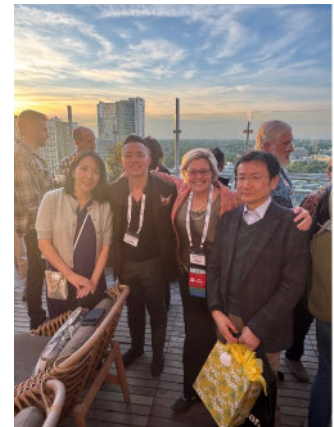
私は初日夕方に現地へ到着したため、Welcome Dinnerから参加し、今年も Presidentの Susan Volk先生とお話する機会を得ました。日本からの参加者は残念ながら赤坂先生と私のみでしたが、現地ではアリゾナに留学中の慶應義塾大学形成外科の高谷健人先生、Upstate Medical Universityの浦尾紀史先生とも昨年に引き続きお会いすることができました。最終日には、高谷先生と私が同じセッションで口演発表を行いました。座長の進行も終始和やかで、発表予定者がハネムーンのため参加できず、PIが代理で発表するという微笑ましい場面もあり、会場は終始リラックスした雰囲気に包まれていました。

学会全体としては、同時開催のSAWCの規模と勢いが例年通り大きく感じられましたが、WHSの各セッションでも基礎研究を中心に活発な討議が行われていました。YIAセッションを聴講しましたが、個人的には日本創傷治癒学会の研究奨励賞セッションも決して引けを取らない内容であると感じました。ぜひ若手の先生方にも、WHSのAward Sessionへ積極的に応募していただければと思います。

来年はフィラデルフィアでの開催(2027年 4月 28日～5月2日)が予定されています。学会員の皆様も、ぜひ参加をご検討ください。



WHS開催のポスター



Welcome Dinnerで
Susan Volk先生(右から2番目)と



Susan Volk会長の挨拶



日本人参加者でのディナー: 左上から時計回りに
赤坂喜清先生、浦尾紀史先生、高谷健人先生、筆者

Kracie

漢方製剤

薬価基準収載



twice or three times a day 選べるやさしさ



医療用医薬品ウェブサイト「漢・方・優・美」

www.kampoyubi.jp

スティックで、健やかな暮らしへ

クラシエ 薬品株式会社

〒108-8080 東京都港区海岸3-20-20

〔文献請求先〕 医薬学術統括部 TEL 03(5446)3352 FAX 03(5446)3371

〔製品情報お問合せ先〕 お客様相談センター TEL 03(5446)3334 FAX 03(5446)3374 〈受付時間〉10:00～17:00 (土、日、祝日、弊社休業日を除く)

■各製品の「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注意事項等情報」等については電子添文をご参照ください。

2024年10月作成